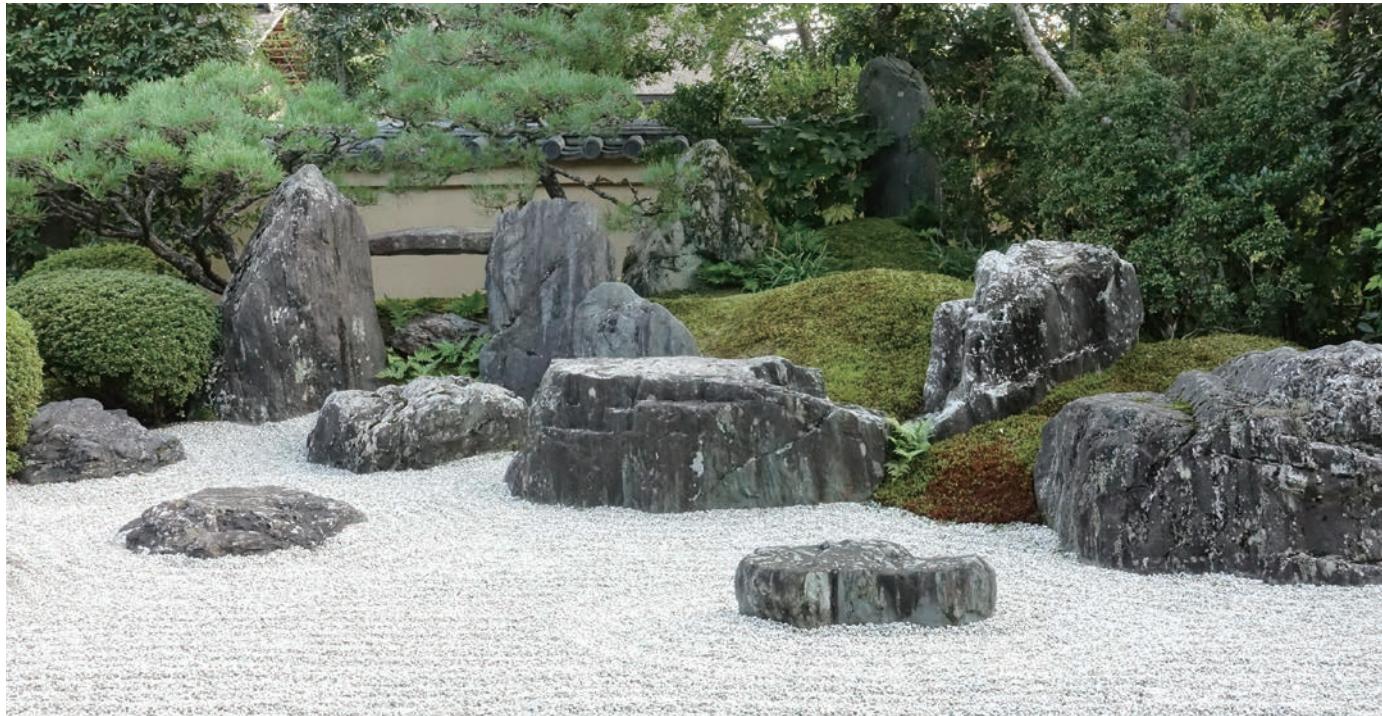




一般社団法人 日本庭園協会

東京都新宿区西早稲田1-6-3 フェリオ西早稲田301号
〒169-0051 TEL:03-3204-0595 (FAX兼用)
E-mail:gsj20@m7.dion.ne.jp URL:https://nitteikyou.org/
発行者:会長 高橋 康夫
編集者:広報委員長 小沼 康子
題字:上原 敬二
発行日:2023(令和5)年1月1日



興臨院 方丈前庭 資料を基に1978(昭和53)年に復元された 2022.10.22 筆者撮影

3日間の休日を京都で家内と遊ぶ

かねつなかしげはる
金綱 重治



1947年生まれ。千葉県君津市出身。1970年京都、中根庭園研究所入所。1977年京都にて金綱造園事務所開設。1979年千葉県習志野市に移転。1983年東京都日の出町に移転。私の今までの人生の中で大きな影響を与えていただいた3人の師との邂逅・庭・中根金作先生・茶の湯・光悦寺山下惠光宗匠・風流する心・林屋晴三先生・座右の書・「図説日本大歳時記」全五巻・山・写真・茶の湯を楽しみながら、日本人の原風景を追い求めて行きたいと思っています。

1日目、京都国立博物館の特別展『京に生きる文化茶の湯』を観る。何回見ても国宝の志野茶碗『卯花墻』と井戸茶碗『喜左衛門』には感動した。この日の夕食は隠れ家的な割烹料理店「うたかた」にて、光悦寺で一緒に稽古をしていた茶の湯の仲間達5人で一杯。

2日目、京都在住で私の弟子であり友人の矢野真一君に車を出してもらい、鳴長明が『方丈記』を書いた庵跡の方丈石を訪ねた。この場所は意外に知らない人が多いと思います。昼は植治作の庭がある「高台寺牛庵」で少しリッチに京料理。その後に特別公開の大徳寺聚光院を拝観。その時、興臨院も特別公開中と知り、それではと少し振りに中根金作先生の復元・改修した方丈庭園を見学。この庭は、私が中根事務所を出た次の年に完成したもので、天空に架かる石橋が特徴的です。夕食は三条高瀬川の京ばんざい「めなみ」。庭の仲間を加え4人(主に3人で)一杯、二杯、三杯。

3日目は朝5時から開店している「早起亭」でうどん。そば党の私ですが、京都ではやはりうどん、「おうどん」ですね。早朝の法然院、下鴨神社を散策して長明の方丈庵の復元建築を観る。私と矢野君は金閣寺、家内は錦市場へ。金閣寺の鏡湖池は私が京都の庭で一番好きなところです。近くに住んでいたので、雨で休みの時などは時々スケッチブックを持って出掛けっていました。ついでに竜安寺の庭も観て、お昼はまたうどん。南禅寺の「大力邸」は、ここも植治作庭の庭を眺めながらの食事(次はうどん以外を食べたい)。最後にリニューアルした京都市京セラ美術館で日本山岳写真協会関西支部展『山との対話』を観る(私の写真も出ているので)。友人たちと歓談の後、矢野君に京都駅まで送つてもらつた。もつとゆっくりと、と思ったのだがやはり貧乏性ですね。(正会員)

庭園協会創立105周年を迎えて

会長 高橋 康夫



著『日本の庭ごぼれ話』
1950年生まれ、東京都小金井市出身。東京都建設局で公園・庭園・植物園事業に携わる。長岡安平翁、井下清先生は大先生。好きな本・龍居竹之介

したが、庭園技術連続基礎講座のオンライン化、龍居竹之介名誉会長のロングラン講演会を対面で開催、鑑賞研究委員会による清澄庭園鑑賞会を実施しました。幸いにもコロナウイルスの感染につながるような事態にはなっていません。

会員の皆様におかれましてはつたがなく新しい年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

昨年もコロナウイルスの感染拡大は収束に至りませんでしたが、緊急事態宣言が発令されることもなく、ワクチン接種も拡大するなど、「気をつけながら以前の日常に近い生活」が戻っているように思えます。一時、人出が少なくなり、浅草寺の雷門から本堂が見えたのですが、現在は雷門から本堂が見えなくなるほど仲見世の人出が戻りつつあります。

また、先日のFIFAワールドカップカタール2022においても満員の観客、そして声を出しての応援などコロナ禍前と同様の開催風景でした。

さて、昨年の協会事業を振り返ると、コロナの影響で対面による総会を中止、伝統庭園技塾を中止としま

今年度につきましては、コロナウイルスの感染拡大の動きに十分気をつけながら、できるだけ従前のような事業展開を図る予定です。

また、今年は日本庭園協会創立105周年の記念の年です。皆様と一緒にとなって記念事業を実施していただきたいと考えています。

まず、今年度は2年間出来なかつた対面による総会を実施できればと考えてています。

また、105周年記念事業として2018（平成30年）に実施した都指定名勝清澄庭園再評価プロジェクト連続講演会の講演記録を一冊にまとめ、国指定名勝へのきっかけづくりとします。さらに公開シンポジウムの開催、講演会、ゆかりのある庭園鑑賞会の実施などを予定しています。

ところで、会員の皆様は日比谷公園が大改造されることをご存じでしょうか。日比谷公園は当協会の初代会長である本多静六博士が設計した日本最初の近代的洋風公園です。この日比谷公園から日本の近代公園の歴史がスタートしたと言つても過言ではあります。その後、多くの公園が日比谷公園をモデルに造られ、本多博士は「日本の公園の父」と呼ばれています。日比谷公園は、公園史の歴史的遺産であり、国指定の文化財として史跡・名勝に十分値するものと考えています。



日比谷公園 樹木があるからこそ癒しの空間になる2022.11.4 筆者撮影

しかしながら、この由緒ある公園を「都立日比谷公園再生整備計画..

令和3年7月 東京都建設局公園緑地部」によつて大改造します。大きな改造は①隣接する高層ビルから幅員20メートルの巨大な連絡橋を2か所設置②濃い緑の空間を創出した緑化道路及び公園周辺の大木となつて癒し空間を創出している樹木の伐採（1000本ほど）③にれのき広場、第2花壇、大噴水、小音楽堂、第一花壇をすべて取り壊しイベント広場にする④三笠山を崩して平坦な空間とする、など本多博士の設計した公園に見る影もないような大改造を行うのです。これでは本多博士が設計し、多くの方が体験した日比谷公園ではなくなつてしまします。どこにでもあるような個性も何もない公園になつてしまます。歴史的価値あるものを破壊すると二度ともとに戻りません。しかもこの計画は一般の利用者に分からぬように進められ決定されています。

私は大改造計画で現在の日比谷公園が壊されることが無いように、現在の日比谷公園の歴史的意義及びその価値・魅力を多くの方に理解していただくよう活動を広げたいと思っています。会員の皆様のご理解とご協力を切に願うものであります。

新年の挨拶 19支部より



1961年8月生まれ、函館市出身。高校卒業後、業を継ぎ、1986年より代表となり現在に至る。2018年より北海道南支部支部長に就任。

北海道南支部・支部長 桃井 雅彦

ももい まさひこ

宮城県支部・正会員 竹田 利光



1973年11月生まれ、仙台市出身。2004年独立開業。個人邸を中心に庭づくり、管理を行う。2021年より宮城県支部長。

栃木県支部・支部長 清水 一樹



1989年生まれ、栃木県出身。植彌加藤造園株式会社（京都市）にて修業後、株式会社清水造園（宇都宮市）入社。現在に至る。

初春のお慶びを申し上げます。

会員皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。昨年はコロナが収まりかけたためか、講習会などが目白押しでいろいろな地域に伺うことができました。伺った先々では地元の日本庭園協会の方々にお世話になり、ありがたいことであります。様々な庭や景勝地などを見学することができました。その時に思い出されたのが、龍居竹之介名誉会長の「庭はね、1年365日24時間、常に違った表情を見せるんだよ。一度見たから良いわけではないのだよ」とおっしゃっていたことです。私などは見ているようで記憶に留めてないことが多々あります。そのためか、見るたびに新たな発見や景色の印象の違いなどを思うところがあり、これからも機会があればいろいろな所に伺つて見聞を広げて行きたいと思っています。

隣地側からの倒木、イノシシの被害、作業道わきの土砂の流出など多くの課題がありますが、少しづつ改善していきたいと思います。

宮城においての際には、ぜひご来園ください。よろしくお願ひいたし

ます。

私は大改造計画で現在の日比谷公園が壊されることが無いように、現在の日比谷公園の歴史的意義及びその価値・魅力を多くの方に理解していただくよう活動を広げたいと思つています。会員の皆様のご理解とご協力を切に願うものであります。

に、山裾に洲浜のつづく園池が広がっています。

本年も会員皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

茨城県支部・支部長

飛田 幸男
とびた ゆきお



1947年9月生まれ、水戸市出身。高校まで水戸、東京で学生生活。23歳になつて造園を志し京都へ7年間修行。水戸へ戻り、32歳で独立し、現在は(株)植木会長。2020年度「現代の名工」になる。時々思い出す庭・大徳寺高桐院の東南(モミジ)の庭。興味がある作庭家・夢窓疎石。

あけましておめでとうございます。景気低迷や核家族そして老後の不安、そこにコロナ感染症の猛威が拍車をかけ、庭づくりは後回しの状態が今年も続々そうです。

例年秋に茨城県造園技能士会と協賛して技能講習会を開催していましたが、昨年11月3日(木)には、支部主催で常陸大宮市に位置する岡山家住宅の庭園見学会を行いました。常陸大宮市長鈴木定幸氏にも参加いたしました。

岡山家住宅庭園(養浩園)では、2019(令和元)年6月、文化財庭園保存技術者協議会の技能研修会が行われ、地元茨城県の庭園ということで私も参加協力しました。岡山家には偕楽園好文亭を模した

三階楼があります。また庭の池では近所の子供たちが冬はスケートを楽しみ、春には花見を催し、徳川斉昭公が「人は民と偕に楽しむ」思想を実践していました。その心が伝わったのか、文化庁は2022(令和4)年夏、喜雨亭を国登録有形文化財に、養浩園を国登録記念物に登録しました。

コロナ禍でもあり、今年度事業は県内の庭園を中心に見学会を企画する予定です。

埼玉県支部・支部長

山田 祐司
やまだ ゆうじ



新潟県出身。2003年みつばち造園設立。

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

新年あけましておめでとうございます。

昨年6月の東京都支部総会にて正式に支部長に任命されました。新しい体制は、支部長の下、副支部長2名、そして5つの委員会を設け、それぞれに委員長を付けました。総務委員会、技術指導委員会、広報委員会、伝統文化委員会、自然環境委員会です。

10月には広報委員会が中心で東京

りに試行錯誤を繰り返しながら庭をつくっている現状ですが、今でもその思いは変わらず心に持ち続けています。良質な庭を一つでも多くつくりしていくこと、簡単なことではあります。良質な庭を一つでも多くつくりながら、チャレンジし続けなければならることとっています。埼玉県支部がより良い庭を一つでも多くつくりつくりつけていくよう新たな庭づくりにつながる支部活動にして行きました。

玉県支部がより良い庭を一つでも多くつくりつけていくよう新たな庭づくりにつながる支部活動にして行きました。同じく11月に自然環境委員会主催で奥多摩方面への山登りを行いました。令和5年度の活動は未定ですが、会員のみなさんに喜んでもらえる事業を企画いたします。参加のほど、よろしくお願いいたします。

東京都支部・支部長

鈴木 康幸
すずき やすゆき



1967年7月生まれ。

東京都国立市出身。1998年9月、造園業に従事。2000年、(株)植経代表取締役就任、現在に至る。好きな庭・旧福武書店迎賓館研二



1972年12月生まれ。神奈川県出身。鎌倉松原庵庭園を手がけてfonrougeループ東日本の星野リゾートを含む全店舗の正月飾りを担当。横浜長生寺、東京

感通寺庭園を作庭。建築士の家から店舗の庭まで幅広く作庭を展開している。2017年からフランスにて日本庭園セミナー講師を務め、現在フランス日本庭園協会の名誉顧問。好きな庭・沖縄グスク群。好きな有名人・ブータン国王。尊敬する人・町場の腕のいい職人。

神奈川県支部としては、瓦土壌の完成お披露目会を関係者を招いて開催して一区切りとし、その後、コロナの第8波に入り、会員の安全を第一に考え当初予定していた活動を全て中止にしました。現在も感染者が増え、第9

波に入った状況を踏まえ、来年度の活動は、今後の感染状況により判断します。安心して会員達が集まる平穏な日々が来ることを願っています。

現在、最も勢いがあり熱のある本支部は、若い会員も多くいます。全国から多くの参加者が集うような活動を再開する予定です。楽しみにしていてください。

昨年は、新潟での庭園視察研修を開催し、多くの人に参加いただき本当に有難うございました。何分至らない点が多くありましたことを先ずもつてお詫び申し上げます。

さて、コロナ感染もまだ心配ですが、今年は色々な活動が各所で行われのではなかると期待しています。

昨年の支部長連絡協議会で報告された活発に活動されている支部を参考にし、若い人たちの意見を取り入れ

ながら今後の活動を展開したいと思つております。また皆様から面白くてうな情報があれば教えていただき、研修会の参考にさせていただきたいと思いますので、ご連絡等よろしくお願いします。

最後に、今年も皆様にとつてより良い年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

石川県支部・支部長
宮本 広之

早いもので、支部長就任の二年間が過ぎてしまいました。主だった行事が何もできずにいた一昨年。何とかコロナ禍を搔い潜り、講習会を二度行うことができた昨年。難しい昨今を考え、本年は役員一同で、知恵を絞っていきたいと思っています。

最近、私の周辺や移動の途中で、やたら新築住宅に目が向くようになりました。今風の建物です。ここでは自分なら、どういうことをするかなと妄想し始めました。今まで目にしていたのもこんな風に使えるなどと…。作庭欠乏症初期症状なのかも（笑）。昨

今、新築やリノベーションでの若手関係者の仕事ぶりは、私の目から見ても興味深いです。若手庭師の方々、チャンス到来ですよ。是非この機会に納得いく作品を手掛けしていくください。

本年も皆様がご健勝でご多幸でありますようお祈り申し上げます。

新しい年がさらに良い年になるとう
う祈念いたしまして、私の新年の挨
拶とさせていただきます。

近畿支部・支部長 山田拓広

1964年12月生まれ、京都府出身。近年は海外の日本庭園について状況調査及びアドバイスを行うことが多い。好きな有名人…最近多い。エルビス・プレスリーを見直しました。

近年は、日本庭園について北米日本庭園協会や欧州日本庭園ネットワークなど、海外での活発な活動がなされています。

されて います。1996 年のポート
ランドにおける国際日本庭園シンポ
ジウムから 27 年、当時から海外の日
本庭園について興味を持ち、あるいは
は関わっている方は多数いらつしや
いましたが、繋がる機会がなかなか
いませんでした。

ありませんでした。近年の動きは昨年開催された国際日本庭園シンポジウムが契機となっています。新型コロナウィルスの流行から、生活基盤を大切にした持続可能な社会の構築に向けたSDGsの動きも加速化しています。私たちが扱う日本庭園は自然と共生する日本の生活文化の発露だと考えます。日本国内はもとより海外に向けても私たちの知識と経験を伝え発揮することが期待されているのではないでしょうか。

新たな年を迎えるにあわせ活動していきましょう。



1950年生まれ。岡山市出身。1968年岡山県立興陽高等学校造園科卒業後、京都市富田造園勤務。1971年に独立後、1978年(有)三樹園設立、現在に至る。

岡山県支部・支部長 三宅 秀俊

みやけひでとし



笠岡市出身。

新年あけまして
おめでとうございま
す。

自然と共生する日本の生活文化の発露だと考えます。日本国内はもとより海外に向けても私たちの知識と経験を伝え発揮することが期待されているのでないでしょうか。

新たな年を迎えるにあわせ活動していきましょう。

当協会のみならず、リモート会議が多く早く皆様に直接お会いできる時を楽しみに、今年は何とか頑張つていただきたいと思います。

一日も早いコロナ終息を願うとともに、皆様においてはしっかりと活動をお祈り申し上げます。

広島県支部・支部長 藤原 忍

ふじわら しのぶ

い会員もありなく、年齢を重ね次第に逝去される会員もあります。またコロナ禍により支部としての活動が何も行われておらず、県外での研修も計画直前で中止となりました。

当協会のみならず、リモート会議が多く早く皆様に直接お会いできる時を楽しみに、今年は何とか頑張つていただきたいと思います。

とに気づきました。私は運良く、いろいろな造園現場に行かせていただけて今があると思っています。今年の抱負として、この経験を少しでも多く早く皆様に直接お会いできる時を楽しみに、今年は何とか頑張つていただきたいと思います。

一日も早いコロナ終息を願うとともに、皆様においてはしっかりと活動をお祈り申し上げます。

鳥取県支部・正会員 田中 節照

たなかせつてる



1978年生まれ、鳥取県住。23歳でブラジルへ移住。26歳で帰国。伊吹植物園に7年間勤務。33歳で独立、雪松造園を設立。

2016年、株式会社雪松

に改名。好きな庭・自分がつくった庭。好きな有名

人・河井寛次郎・思いがあれば技術はあとからつ

いてくる。尊敬する人・廣池千九郎、孔子、キリ

スト、秋迦。



1960年生まれ。香川県出身。1978年から従事。好きなこと・商業施設及び古庭園の見て歩き。巨樹の見て歩き。

四国支部・支部長 米谷 進吾

まいにちしんご

初春とはいえ厳しい寒さが続いて

おります。

新年あけましておめでと

うございます。

今回は四国支部の紹介をします。

うございます。

会員数23名で、香川県11名、愛媛県

9名、徳島県3名です。3県を跨ぐ

活動で、広範囲ゆえ地方色の豊かな

会員の構成からくる多様な工法、考

え方に満ちた会員交流の支部となっ

ています。

コロナ禍において、ご多

分に漏れず十分な活動ができずにい

ましたが、そんな中、秋の剪定シ

ズン直前に「マツの剪定講習会」を

開催することができました。多数の

支部会員が共通の他団体との共催で

したが、前支部長越智将人氏、支部

会員の小林賢也氏による講義、実技

講習でした。若い人は深堀りに、年

配者は原点に立ち返れる濃い内容の

刺激の多い講習会でした。

今後は、魅力ある活動と技術講習

会を開催することを通して、会員相

互の交流と技術の向上を、会員の増

加の策として支部会の運営に取り組

み

たい

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

い

と

思

い

ま

庭園の冬支度

日本各地の「庭園の冬支度」の写真を募集したところ、北海道や石川、福井、宮城、神奈川、東京から多くの情報をいただきました。

届いた写真は、防寒、防雪を目的とした「冬囲い」や「雪吊り」、「霜除け」、「敷松葉」、正月に向けた「門松」や「正月飾り」、そして「露地の冬支度」などです。

地域のたよりとともに紹介します。

冬囲い

北山台杉の冬囲い

宮本広之氏作・2021.12.9撮影

石川県と言えば、兼六園の雪吊りが有名です。その手法は高木に施すリンゴ吊りや幹吊りがあり、低木には三叉絞り等が用いられます。

写真は北山台杉の冬囲いです。高木は、リンゴ吊りが美しい設えとなるのですが、リンゴ吊りの支柱を固定するには、台杉は立ち木(幹)の安定度が足りません。そこで、取り木(枝)を吊るためにはひと工夫必要となります。穂先は当地での水分の多い重い雪が乗ると、傷みは重大です。タイトに絞ることとなります。

ところで、昨年雪吊り作業中に冬支度ということで、モズのはやにえを地上1.5mの所で見かけました。本年は降雪量が多いのでしょうか！

(石川県・宮本広之)



白山平泉寺近辺の冬囲い

内田均氏・2022.10.22撮影

福井県内でも豪雪地帯の勝山市平泉寺町平泉寺地界では唐竹と荒縄(リンゴ吊り)による雪吊りでは、崩壊するおそれがあるので丸太でウマ(骨組)を造りそれに貫板や唐竹を括り付けます。また、景観を考慮して唐竹で全体を囲うこともあります。

(福井県・土井直紀)



栃木中央公園の雪吊り(北部式)

清水一樹氏・2010.2.2撮影



栃木県内は山間以外で雪が積もることは珍しく、年に一度あるかないかの雪景色です。頭飾りにはワラボッチをのせ、割り竹の裾回しに縄を結ぶ北部式とほぼ同じ構成です。(栃木県・清水一樹)

冬囲い

北海道、東北地方の日本海側、北陸地方のような豪雪地帯で、冬の間、樹木(主に庭木)を積雪や冷気から保護するために「わら」や「こも」を用いて囲んだり、幹や枝を支える「冬囲い」を施します。



オリジナル門松と正月飾り

竹田利光氏作・2020.1.1撮影

スギは寿命が長く縁起の良いものです。カワイイとユーモアをテーマに創作した門松と正月飾り。これからも新しい‘かたち’を発信します。(宮城県・竹田利光)



オリジナル門松

米山拓未氏作・2022.12撮影

設置の様子と出荷風景です。鎌倉、東京、軽井沢の飲食店やお寺に設置します。(神奈川県・米山拓未)

門松

正月に年神様を迎えるための依り代という意味があり、家の門口に立てる松の飾りのこと。一年中落葉しない松、成長が早く生命力の強い竹、新春に開花し年始にふさわしい梅と3つの縁起物が用いられるのが一般的ですが、近年は斬新なデザインのオリジナル門松も見られます。



数寄屋の家の門松

廣瀬慶寛氏作・撮影

数寄屋の家(本号16頁で紹介)の門松です。青竹はそぎ切りの出飾りで対に配した伝統的な形です。

(神奈川県・廣瀬慶寛)

雪吊り

冬季、雪が付着することで、樹木の枝が折れないよう縄で枝を保持すること。北陸地方(特に富山県や石川県)では、専ら雪囲い(ゆきがこい)と呼ばれ、実用的な意味合いが大きいのですが、降雪量の少ない地域の庭園では雪吊りで冬の景観を演出しています。

旧岩船氏庭園(香雪園) の雪吊り(北部式)

桃井賢二氏作・
2020.12撮影

雪が降り始めた頃の雪吊り。頭飾りにワラボッチをかぶせた北部式です。

(北海道・桃井賢二)



兼六園の雪吊り

(兼六園式)

高橋康夫氏・
2019.12.13撮影

金沢兼六園の雪吊りは有名です。30cm以上の降雪がある金沢では、重く湿った雪がクロマツに積もり、その重みで枝が折れる雪害から守るために雪吊りが施されます。頭飾りは荒縄巻と飾りいぼ結び、裾回しを設げず縄を直接枝に吊り込んでいるのが兼六園式です。もともとリンゴの重さから枝を守るために縄を張った枝吊り方法を応用したもので、そのため別名「リンゴ吊り」とも呼ばれています。



雪
吊
り



小石川後楽園・ 一つ松の雪吊り (北部式)

高橋康夫氏・2020.1.3撮影

東京ではあまり雪は降りませんが、冬の景色を演出する目的も兼ねて雪吊りが行われています。

頭飾りはワラボッチ、割り竹の裾回しに縄を結ぶ北部方式です。割り竹が横から見て8の字を描くように回すのが、北部式の特徴です。

(東京都・高橋康夫)



清澄庭園の雪吊り(南部式)

酒井和佳子氏・2022.10.15撮影

清澄庭園の雪吊りは南部式です。頭飾りは吊り縄を編みこんだ「ばれん」という装飾が施され、裾はシユロ縄を回します。シユロ縄がきれいな弧を描くように吊るのが南部式の特徴です。

(東京都・酒井和佳子)



旧古河庭園のソテツの霜除け(鎧)

高橋康夫氏・2020.1.10撮影

この形は「鎧」です。すぐったわらを下から一段ずつ鎧状に巻き、頭飾りにワラボッチをかぶせます。足下にわらをのせて黒シユロ繩で化粧巻きをします。ここでは根周りには敷松葉が施され、冬の庭園に趣を添えています。

(東京都・高橋康夫)



霜除け

暖かいところに育つソテツは桃山時代に渡来し、庭園に導入されました。現在は、温暖化で防寒対策を施さなくても冬を越せますが、冬の庭園を演出する風物詩として霜除けが行われています。

清澄庭園の霜除け(巻き下し)

酒井和佳子氏・2022.12.15撮影

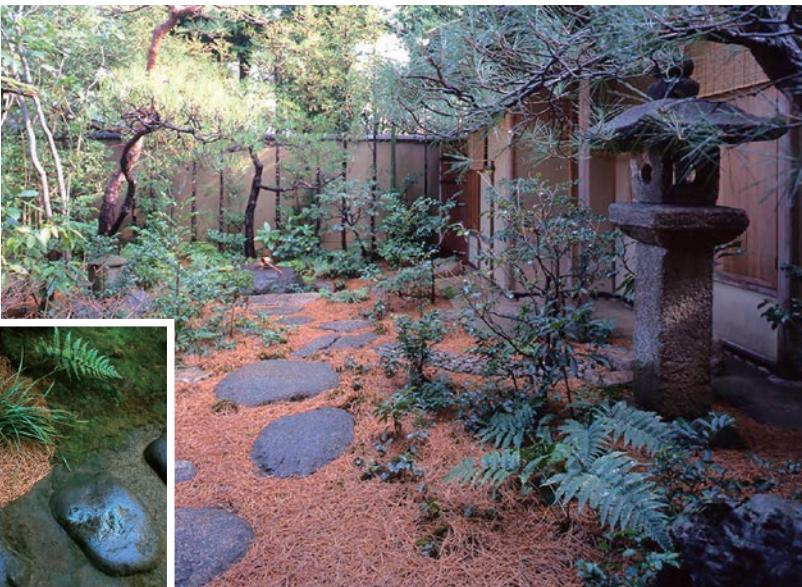
「巻き下し」は枝を枝折り、その上にすぐったわらを下から上へとあてがっていき、頭飾りにワラボッチをかぶせます。最後に黒シユロ繩で化粧巻きをします。ここでは根周りには敷松葉が施され、冬の庭園に趣を添えています。

(東京都・酒井和佳子)



露地(茶庭)の冬支度

敷松葉とは、地面に松葉を敷くことで、冬場にコケを霜や凍結から守るために行われます。露地においては、冬を感じさせる趣から好んで敷松葉が施されます。初釜の設えも正月を迎えるための冬支度です。



露地の敷松葉

金綱重治氏作・2022.12撮影

冬の寒さや寒風から庭のコケを保護する実用性と冬景色を楽しむ美観性も兼ねています。庭の全面に敷いたり、または所々に敷いたりと流儀や個人の好みによりいろいろな敷き方があります。

(東京都・金綱重治)



露地の敷松葉

廣瀬慶寛氏作・撮影

松葉が敷き詰められた庭は、温もりと神妙な雰囲気が漂います。 (神奈川県・廣瀬慶寛)



露地のワラボッチ

廣瀬慶寛氏作・撮影

ワラボッチは防寒の目的で施されます、露地では冬の庭に趣を添えます。デザインを変えて楽しめます。

(神奈川県・廣瀬慶寛)



初釜の設え・青竹

金綱重治氏作・2022.12撮影

茶の湯では口切の頃や正月の初釜の前に覓や竹桶、竹垣の一部分を青竹に差替えて、改まった気分を演出します。 (東京都・金綱重治)





はじめに

2022（令和4）年7月22日から

8月10日までの20日間にわたるアメリカ出張の成果を報告します。今回の訪米の主な目的は、①日本庭園講座「Waza to Kokoro - Hands & Heart Level-1 Seminar（以下、技と心セミナー）」の客員講師、②シカゴ市の大阪ガーデンの視察、③北米日本庭園協会の地方大会への参加です。

「技と心セミナー」講師

今回、私が客員講師として派遣された「技と心セミナー」は、ポートランド日本庭園を運営母体とする教育機関“International Japanese Garden Training Center”が毎年開催する日本庭園の技と心を学ぶことに特化した短期集中講座です。当協会からは、2016（平成28）年から3年間にわたり前国際活動委員長の三橋一夫氏が講師を務めており、その間に本川勇氏、曾根将郎氏も派遣されています。このセンターは、ポートランド日本庭園のチーフ・キーレーターを務め、当協会の評議員

でもある内山貞文氏が統括しています。またポートランド日本庭園のステイーブ・D・ブルーム氏は、2018（平成30）年に行われた当協会100周年記念式典の折に特別名誉会員に推挙されています。今回の派遣は、このようなポートランド日本庭園と当協会とが紡いできた長年の友好関係に基づいて行われたものです。

今回のセミナーは初心者クラスに位置付けられるもので、7月25日から31日までの7日間のプログラムです。過去には中堅クラスも開催されています。受講生は11名（途中棄権1名）で、既に造園設計や施工に携わっているプロの方が中心です。このセミナーでは毎回アメリカ国内だけでなく他国からも受講生が集まりますが、今回は初めて日本からの受講生がいました。その方は日本で造園業を営む外国出身の方で、日本では日本庭園に関する総合的な講習を受けられる機会が少なく、また自習をするにも日本語以外の適当な本が無いため、今回の受講を志したとのことです。のことからも、本セミナーの国際的な意義が感じられます。



図1 設計演習の様子（ポートランド日本庭園提供）



図2 作庭実習で小庭をつくる（ポートランド日本庭園提供）

講座内容は、複数の庭園様式が併置されているポートランド日本庭園の特質を活かした園内観察に始まり、茶道師範であるJan Waldmann氏によるお点前のデモンストレーション、庭師の道具の紹介、飛石や延段の設計演習（図1）、そして竹垣のイボ結びに始まる竹垣製作実習と蹲踞や延段を据える作庭実習、透かし剪定の実習があります。講座は全て英語で行われ、そこでは常にディスカッションが重視されます。講師の内山氏がしばしば受講生の意見や考えを引き出すような投げかけを行い、そこで生まれる議論が講座の質をさらに高めていくように感じました。

私は主に実習の講師を任せられました。作庭実習は、ポートランド市郊外の「Smith Rock」という石材店の置き場を借りて、日本における造園技能検定の1級実技課題をアレンジした小庭（蹲踞、延段、飛石、竹垣）をつくる内容です（図2）。今回は1

日本の職人の間で続けられてきた「見て盗め」というような教授法は、このような国際的な場面では限界があります。このセミナーは、このようないわゆる米国式の教授法を用いることでより多くの人々の向学心に応えられるよう開発された点に特徴があり、こうして世界中からの需要を受けて常に進化を続けています。



図3 剪定を指導する筆者
(ポートランド日本庭園提供)

グループ3名で、およそ3日間かけて課題に取り組みます。この作庭実習では、受講生は基本的には個人の創意欲を發揮する場所ではないことを心得て、図面と講師の指導の通りにつくることに取り組みます。これにより、まずは各自の経験の中に一つの基準をつくることを目指します。

本食の弁当が振る舞われ、そこで食文化の解説が行われます。食文化までと思われるかもしませんが、日本の文化を全く知らない人が日本の庭だけを学びとろうとすることは、不毛であることを私たちは知っています。このように、このセミナーでは異文化間における効率的な学びを国際的な方法で提供するよう、常に工夫されています。

剪定実習は、ポートランド市郊外の植木生産農家「Iseli Nursery」で行われます。この実習ではAesthetic Pruners Association認定講師の

Maryann Lewis 氏が剪定の講義を行ない、私は剪定のデモンストレーションと実習指導を担当しました（図3）。剪定実習に使われたのは大きなベニシダレです。これはこの地域でも一般的な庭木ですが、日本と違つて無剪定のままボリューム感のある姿で庭に植えられていることが多く、こちらではそういうものとして認識されているようです。透かし剪定を施すという発想が一切ない人たちにとっては、最初はその意義がよく飲み込めずに、枝を切ることを躊躇する人もいます。そのためここでは、枝振りの美しさを見せることや、樹冠内に光を入れて次世代の枝を育てるといった、剪定を施す意義をしっかりと説明する必要があります。

れているようです。透かし剪定を施すという発想が一切ない人たちにとつては、最初はその意義がよく飲み込めず、枝を切ることを躊躇する人もいます。そのためここでは、枝振りの美しさを見せることが、樹冠内に光を入れて次世代の枝を育てるといった、剪定を施す意義をしつかり説明する必要があります。

このセミナーのような日本のもの
づくりに関する国際的な教育の場面

では、従来の日本の職人修行のよう
に一方的に作業を身体に叩き込ませ
たり、職人技とは全てが修練された

感覚によるものであるかのような伝え方をしたりすることは、日本文化の謎めいた魅力を増幅するだけで、ほぼ無意味だと感じました。まずは

こちらが相手の国の風土や嗜好の理解に努め、お互いの価値観を尊重しながら、科学的な説明と対話を重視した実践を行うことが、効果的な

学びを生みます。限られた時間で行うセミナーですから、受講者各自が

これから自分自身で正しい方向に学んでいくよう、理解と価値観の基礎を築いてあげることが、今回のようないい講師の重要な任務だと思いました。

セミナーを終えた翌日に飛行機で移動し、8月2日と3日の2日間にかけてイリノイ州シカゴ市の「大阪ガーデン（旧名称：The Garden of the Phoenix）」を訪問しました。

の庭園は、2019（令和元）年に
国土交通省「海外日本庭園再生プロ
ジェクト」にて三橋国際活動委員長
率いる当協会メンバーにより修復工
事が行われています。場所はシカゴ
のダウンタウンからほど近いミシガン
湖のほとりのジャクソンパーク内にあ
り、1893（明治26）年のシカゴ
万博をきっかけに造営されたもので
す。当時、園内に鳳凰殿と名付けら
れた純日本建築のパビリオンが建て
られたことが、旧名称のPhoenixの由
来です。1993（平成5）年に大
阪市とシカゴ市の姉妹都市締結20周
年を記念して、現在の名称に改名さ
れています。

私にとつては、2019（令和元）年の修復工事に参加して以来の訪問です。当時の私は、文化庁派遣の在外研修生としてポートランド日本庭園

園に勤務していたため、三橋氏に頼んでボランティア参加しました。今回の出張は、この大阪ガーデンにも以前から関わっている内山氏の力を

借りて、庭園を管轄するシカゴ公園管理局 (Chicago Park District)、以下 C.P.D.) に私の訪問を提案し、C.P.D.より出張経費のサポートを受けたことで実現することができました。当協会チームが訪れた当時から変わらず庭園管理を担当する C.P.D.職員の Karen Szyjka 氏と Michael Dimitroff 氏は、私の再訪を大変喜んでくださいました (図 4)。



図4 左から Michael Dimitroff 氏、Karen Szyjka 氏、筆者 (筆者撮影)



図5 修復工事箇所にコニファーが補植されていた (筆者撮影)



図6 舟着き周りの植栽管理や観の高さなどについて助言をした (筆者撮影)

今回の訪問の目的は、前回の工事箇所の視察と庭園管理に関するアドバイスの提供です。前回の修復のメインであつた滝組上部は損壊などもなく、修繕した霰こぼし園路部分も良好に保たれています。滝の湧出口の周囲には新たにコニファーが植えられています (図 5)。これは三橋氏から滝の上部は植栽で暗くするよう指導されていたため、後に補植

したとのことです。

庭園全体に対する私の所見として、主に①樹木の透かし剪定のアドバイス、②舟着き周辺の水生植物の手入れ (図 6)、③鯉の流出防止ネットの修景、④飛石園路の改修、⑤景石の据え方、⑥灯籠の傾きと蹲踞の観の高さ、⑦園内の蹲踞の復旧、以上上の点について、現地で指摘および解説をしました。後日、その内容とアイデアスケッチをレポートにまとめ、C.P.D.に提供しています。この庭園の最大の特徴は、ミシガン湖と池の水を共有する構造と景観ですが、近年ではこの水位が定まらないために護岸の後退や沢飛びの水没、鯉の流出などが起き、これが大きな悩みの種になつているようです。

また、この庭園に関する大きな動

成 9) 年に内山氏が描いた庭園改修プランを元にして、三橋氏が後に敷地拡張部分を加えて新たに全体構想図として描いたマスター・プランをベースに検討が進められており、現地のランドスケープ設計会社が基本設計をまとめて各ステークホルダーとの協議を続けています。

今回のシカゴ訪問では、在シカゴ日本総領事館にもコンタクトを取

きとして、隣接する敷地に 2025 年にオバマ大統領記念図書館の建設が予定されていることがあります。

現在シカゴ市と C.P.D.、The Garden of the Phoenix Foundation が協働して、庭園の拡張改修計画を進めています。この計画は、1997 (平成 9) 年に内山氏が描いた庭園改修

プランを元にして、三橋氏が後に敷地拡張部分を加えて新たに全体構想図として描いたマスター・プランをベースに検討が進められており、現地のランドスケープ設計会社が基本設計をまとめて各ステークホルダーとの協議を続けています。

この庭園には日本人庭師が常に関わる体制がないため、管理担当者の Szyjka 氏が「技と心セミナー」で学び、現地造園業者を監督していくと思います。おそらく海外の日本庭園ではこのような体制が一般的になつていていますが、庭園の管理者が日本の技術者と直接関わり続けていくことは、その庭園が本当に日本の美意識に基づいているという根拠を示します。今回の訪問は、当協会と大阪ガーデンの絆を繋ぎ続けるための一歩としても、意義のあるものになりました。

北美日本庭園協会地方大会

大阪ガーデンの視察を終えた翌日、高速バスでシカゴ郊外のロック

り、広報文化センターの柴田勉領事とお会いする機会を得ました。総領事館も庭園の拡張改修計画に協力しており、柴田領事とは 2 時間あまり携について、またシカゴエリアの日本文化全般に関する情報交換をし、当協会としても引き続き大阪ガーデンの発展のために協力を惜しまない旨を伝えました。

この庭園には日本人庭師が常に関わる体制がないため、管理担当者の Szyjka 氏が「技と心セミナー」で学び、現地造園業者を監督していくと思います。おそらく海外の日本庭園ではこのような体制が一般的になつていていますが、庭園の管理者が日本の技術者と直接関わり続けていくことは、その庭園が本当に日本の美意識に基づいているという根拠を示します。今回の訪問は、当協会と大阪ガーデンの絆を繋ぎ続けるための一歩としても、意義のあるものになりました。

フォードという街に移動し、8月4日から8日まで行われた北米日本庭園協会（North American Japanese Garden Association. 以下、N A J G A）の地方大会に参加しました。N A J G Aと日本庭園協会とは、2014（平成26）年に交流連携協定を結んでいます。

今回のイベントの会場になつたAnderson Japanese Gardensは、元々の地の実業家の邸宅庭園として造られたものが1998（平成10）年に地元組織に譲渡され、公開運営です。作庭は、小形研三氏に学び、ポートランド日本庭園のディレクターを勤めた栗栖宝一氏によるものです。この庭園は、現在はアメリカ人の常勤庭師により維持管理されていますが、植木や園路の手入れが丹念

に施されている印象で、大変美しい景色が保たれています（図7）。特に、滝や建築、灯籠、蹲踞などの添景物の「見え隠れ」をつくる梢の透かし剪定が的確に施されているのが分かり、彼らの意識と技術の高さに驚きました。海外の日本庭園に触れると「日本庭園とは何か」という自問が自然に生まれますが、こうして来訪者に見せたい景色や体験を捉えて、意図的に空間の構図を整え、静謐な緊張感をつくる剪定が施されて、この庭園の手入れは、たとえ植物の種類が日本とは異なつていても、間違いくらいが日本庭園であることを感じさせます。この庭園の管理を統括するキュレーターのTim Gruner氏も、過去の「技と心セミナー」で三橋氏に学んだ一人です。



図7 手入れが行き届いたAnderson Japanese Gardensの植栽（筆者撮影）



図8 書道の体験を通して日本的心を学ぶ（筆者撮影）



図9 パネルディスカッションの様子。登壇者は左からJohn Powell氏、Tim Gruner氏、筆者（Marisa Rodriguez氏撮影）

今回の大会は、「Kokoro」と名付けられた日本の心に関するセッションと「Erosion Control（浸食防止）」のセッションの2本立ての内容で、それぞれ数日間かけてレクチャーとワークショップが行われました。私は前半の「Kokoro」のセッションのみ参加しました。ここでは、イリノイ大学の郡司紀美子氏による書道や茶道の実践的な講座を中心に、Tim Zimmerman氏、John Powell氏、Randy Gruner氏、John Powell氏、Randy Zimmerman氏によるレクチャーが行われました（図8）。講師も含め30名ほどの参加者が集まり、議論と実践を通して日本文化を捉えようとする内容に、私も多くの学びを得ました。特に、John Powell氏の講義の

中で、日本庭園（茶庭）についておわりに

日本庭園は、海外の庭園においてもそれぞれが情熱を持つた現地の人々によって支えられていることを、忘れてはいけません。私にとっての今回の訪米の最大の成果は、その人たちと出会えたことです。これからは、日本の庭園文化や技術を世界の財産の一つとして捉えて、日本人も外国人もお互いに協力してその素晴らしさを追求し、発展させていく時代だと強く感じています。

（国際活動委員会事務局長）

つて解説していた点はとても興味深く感じました。また、プログラムの中で行われたパネルディスカッションには急遽私も登壇してコメントしました（図9）。

この大会は、参加者の多くが北米の日本庭園の庭師やディレクターなどであるため、私も含め日本庭園関係者同士の情報交換や懇親の役目も担っています。Gruner氏とは、2019（令和元）年に当協会チームと一緒にこの庭園を訪れて以来となり、お互いに再会を喜び合いました。こうして人間同士が日本庭園を通して関係を続け、交流を深めていく機会や組織があることは、とても素晴らしいことだと思いました。

第13回 庭園技術連続基礎講座

庭に向かう私の姿勢

第3回 『庭 いつもあこがれます』

2022(令和4)年7月31日(日)オンライン講座

廣瀬 慶寛
ひろせ よしひろ

今回、急遽講師を務めることになり、資料など十分に確認していない状態ですが、よろしくお願ひいたします。

まず初めに、庭づくりをするにあたって、日頃考へてることを紹介します。

かたくつめたそうにみえる木のはだに そつとふれてみるとあたたかくて 木のいのちが息づいていることが感じられます

暮らしをお手伝いしています

私は庭をつくることを通して暮らしの豊かさづくりのお手伝いをしています。

心を読んで、
空間をつくる

【廣瀬 慶寛プロフィール】
1951年7月、新潟県生まれ。飯田造園設計事務所に入社し、飯田十基氏より雑木の庭を習う。1981年、作庭処廣瀬を立ち上げる。主な活動・住宅庭園の作庭、古庭園の修復等。元文化財庭園保存技術者協議会代表。日本庭園協会常務理事・技術委員長、現在に至る。

えない安らぎのある空間をつくる造園の仕事は、深めれば深めるほど、奥の深いものです。また、伝統の技術を駆使しつつ、常に新しいいぶきを吹き込みながら創造していくこの仕事は、暮らしに心のゆとりが求められる今、大きく注目されています。

個人の庭ばかりではなく、都市景観づくりにとっても、専門家としての知識や発展的な考え方が必要とされています。

人に心がある限り、庭がなくなることはないでしょう。心と深く関わりながら進めていく造園の仕事に図り知れなりやりがいを感じています。ここには、人としての未来があります。

私は、どのような庭をつくってほしいと望まれているのかができる限り知ろうとします。どのような木を植えて、どのような石を入れるかという前に、どういったニュアンスの庭ができれば満足してもらえるかとということを理解するのです。



落葉樹の美しさと楽しさの庭・露地のスケッチ

目に見える素材を使って、目に見

庭 いつもあこがれます

木が花をつける

いつも緑の葉をつけている木

葉の色が赤や黄色になり葉が落ちてしまう木

とんがつて いる葉 大きな葉

ぎざぎざした葉

葉が枝についているようすも
みんなちがいます

これは、つくる人それぞれによつて庭は違うということを、木に例えて表した言葉です。

暮らしをお手伝いしています

私は庭をつくることを通して暮らしの豊かさづくりのお手伝いをしています。

心を読んで、
空間をつくる

「いつたいどうやつて庭をつくればいいのだろう」と、庭づくりについて素朴な質問に出会うことがあります。

さらに、庭をつくりたい人のイメージをより具体的でわかりやすくするために、プランを図面やイメージスケッチで表現します。立体の模型をつくることもあります。

その図面などに納得し、予算のチケットがすめば、いよいよ実際の庭づくりがスタートします。

そして、出来上がった庭が施主にとって納得のいくものであることはもちろんです。そして、プロとしての技量が盛り込まれ、心から満足してもらえるものでなければ本当の成功とは言えません。

また、様々な情報を施主に提供できる存在でなければならないと考えています。植物への理解は実践を通して生まれるもので、私は、植物のプロとし、そのことを肝に銘じて、愛情を持って日々、植物と接しています。

目には見えないものがある

一口に日本庭園といつても、時代と共に変わります。しかし、日本人が自然そのものの中にやすやすと言葉にすることのできない美を感じ取り、それを庭の空間を借りて表現してきたことは確かです。

自然を取り入れながら、計り知れない創意と日本人らしい美意識が盛

り込まれた庭は、日本的な文化の伝統として受け継がれてきました。

日本の庭の歴史は1200年ほど前に遡ります。狩猟から農耕へと生活の柱となるものが変わり、人々が農作業をするための多目的な広場を持つようになりました。人は、そこに木や花を植えたり、石を置いたりしたのでしょう。自分の身近に、美しいと思う自然を取り込みました。

このような素朴な庭がある一方で、奈良・平安時代、大陸伝来の仏教の影響で深く考慮する対象としての庭が出現しました。大きな寺院や貴族の庭です。

鎌倉時代、武士が台頭し、政情不安の世となると、人々は神仏に救いを求めるます。おのずと人の集まる神社や仏閣には抽象的な宗教性を持つ庭がつくられました。

室町時代には、能やお茶の文化が花開きました。数寄者といわれる人々が、お茶に禪の精神を吹き込み、目には見えないものに価値を見いだしました。統いて、回遊式庭園に見られるような豪華絢爛な庭もつくれるようになりました。

江戸時代には、庭の裾野は庶民の生活の場まで広がり、世情の安定で趣味を追い求める庭が登場しました。配石や配植を指南するマニュアル

ル本が登場したのもこの時代です。しかし、日本人の心と深く結びついた庭には、特定のマニュアルがあるわけではありません。庭の前に立つて思い入れれば心が和む。なぜか

安らぎを得ることができる。そんな空間であつていいのです。

これからも庭は時代とともに、人とともに変化していくでしょう。そこには長い時間が培ってきた美意識と、日々の暮らしをまろやかにする目には見えない世界が広がっているはずです。

求めているのは何なんだろう

今、なぜ日本庭園なのでしょう。このことを私は、眞面目に日々実践し、自分に問い合わせています。

先人たちは、野辺で見つけた「いいなあ」と思う景色を直接的に庭に写すことをしませんでした。自然の美しさの印象をいつたん自分の中に取り入れ、そこに自分の創意と美意識を加えて、庭の心として表現してきました。

私は、このようなことを考えながら、庭をつくってきました。皆様も、いろいろな施主がいて、いろいろな形の敷地があり、いろいろな考えがついていきます。

10人の施主がいて、10人の親方がいれば、それぞれ違う庭ができるのは当然です。同じ庭であると何の面白もないと思います。そんな中で、日々練磨しながら仕事を続けております。

次に、私が手掛けた庭を紹介します。

ら今に至っています。さらに、その時代を生きる人々の感覚にマッチしたセンスも日本庭園には生きています。

つくり手として、日本庭園を考えるとき、ただ、緑を並べただけで満足できない日本人の美意識に応えるため、日本人の心のありようとともにその心を表現する技を常に学び続けなければならぬと思つています。そして、今を生きる人々が何を求めているのかを敏感に感じなければなりません。

庭をつくることは人の心と接すること。このプライドに支えられて今まで見事に反映した新しい時代を見事に反映した新しい日本庭園の原点を創れればどんなに素晴らしいことでしょう。未だ見ぬ明日へと大きな世界が広がつていきます。

だからこそ、日本庭園の内ふところには自然と造形が同居し、伝統美を醸し出しているのです。伝統美はたびたび、わび、さびなどの言葉を借りて表現されています。また、日本庭園は地域性や風土に培われながら生きています。さらに、その時代を生きる人々の感覚にマッチしたセンスも日本庭園には生きています。

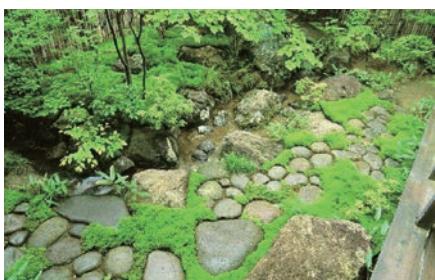


滝から落ちる流れです。水がたまる部分は保水という形にしてあります。高木はコナラ、イロハモミジ、低木はヒュウガミズキ、下草はシダ、セキショウなどを入れています。流れに映る木の影や空が見えるなど、自然仕立ての仕上がりとなりました。



④千葉、流山－流れを楽しむ庭

更地からつくった庭です。夫婦2人の住まいということで、平屋のこじんまりした建物です。庭も狭い空間です。建物の近くには木を植えないようにして、園路と流れにしています。水源は滝にしています。奥の植え込みスペースは雑木だけを植栽しています。隣地は公園で雑木がたくさん植栽されており、その景色も取り入れるようにしています。



雑木林の縁の小流れで、庭の排水も兼ねています。スギゴケが出てきています。スギゴケが盛り上がりてきて園路や景石を被うようになり、良い感じになっていると思います。

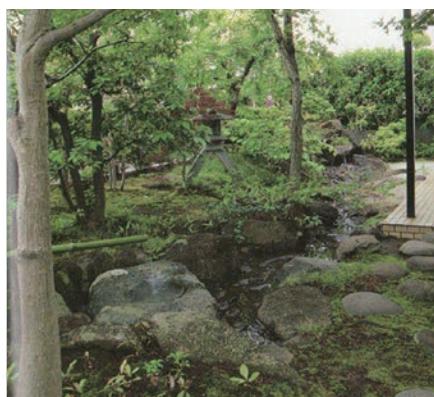


②つくばみらい市の家－心配りされた庭

敷地は約2500坪あります。これは玄関のポーチから見える庭です。奥に見えるのは門で、庭はそこから一段高くなっています。100坪ある建物に対して、豪快さを表現するためにダイスギを使いました。建物周りの雨落ちはかなり長いので、家の方が1年に1回、雨落ちのゴロタ石を上げて掃除するのですが、年々苦になってきているようです。できるだけ手助けをするようにしています。



腰掛待合の前の延段は幅を狭くしています。使っているのは御影石の切石と筑波石のゴロタです。奥に向かって徐々にコケが出てきています。コケは、普段から水やりや掃除をすれば綺麗に広がるのですが、2500坪もあると管理がなかなかしきれない状態のようです。



③横浜・住宅地の中の狭い庭－改造の庭の苦しさ楽しさ

改造の庭です。植栽は既存樹にほんの数本足しただけです。庭の構成的には、手前の水鉢からの流れになっており、奥には小さな滝があります。水は循環です。

この水鉢は、自然石で相応しい石を見つけ雨の日に加工したものです。

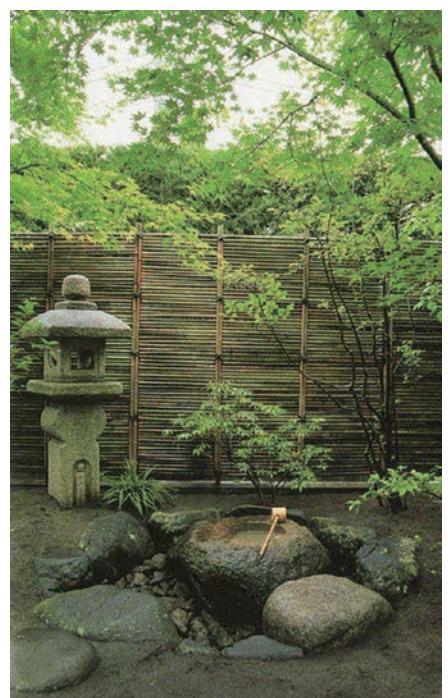


①世田谷・数寄屋の家－落葉樹の美しさと楽しさの庭

ビルの多い街中の一角にある数寄屋の家の庭です。建物には、小間や立札の席もあります。庭は露地となっています。

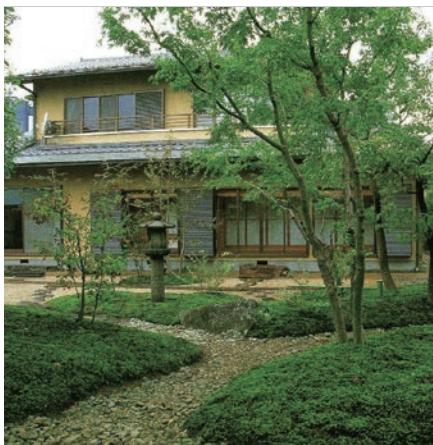
立札の席から見た庭で、右奥に腰掛待合があります。狭い空間ですが、これでも東京では広い方の庭です。作庭当初はコケを貼りましたが、東京の風土に合わせず、徐々に消えてしまいました。これはその頃の写真ですが、現在はジゴケが出てきて、少しずつ落ち着いた庭になってきています。

手前にレールが見えますが、ここのガラス戸は全部戸袋の中に入っていますので、見えないようになっています。レール部分にまたがるように一つの石を置き込んで、中と外の空間を繋がるように考えています。



小間前の織部灯籠と蹲踞です。普通ですが、水鉢には筧を使って水を流し入れますが、ここは茶事で使うということで、水は桶で入れるようにしています。

この庭の木々は、ほとんどが落葉樹で、その美しさを生かしています。太陽が出ると木漏れ日で地面に影が映るというような楽しみ方もできます。足元をすっきりさせて、できるだけ草取りや掃除がしやすいようにしています。



⑦日野市の庭－家族の心に融け込む庭

周辺には自動車の会社があり、人通りの多い場所ですが、住宅地としてはなかなか良いところです。

施主夫婦の住む家を望む景色です。手前側にはお嬢様家族が住んでいるので、両方から楽しめる庭となっており、どこからでも楽しめるようにしています。

建物前は、砂利敷で延段があります。植栽とコケの部分は地こぶになっており、園路は砂利敷です。樹木は少なめですが、コケのボリュームがあるので、明暗が付いています。コケに映る落葉樹の木漏れ日が良い感じになっています。また、春の芽吹きの頃は明るい庭になります。



玄関前の前庭です。狭いですが、蹲踞と燈籠を据えています。目隠しに常緑樹のモッコク、ツバキを植えています。それ以外はほとんど落葉樹です。



⑥熱海市 好日庵の庭

好日庵という菓子店で、販売だけでなく、店内で菓子とお茶を出しています。

入口前の蹲踞です。石と四方仏水鉢と水で構成し、回りは洗い出しにしています。砂利敷にすると砂利が動き玄関前が雑然とするので、それを避けています。蹲踞周りは、御影石の切石と自然石を上手く組み入れてつくっています。四方仏は角が取れて、やわらかく仕上げられており、彫りもいいものです。ひさしの下で、植物がほとんど育ちませんので、セキショウを少し植えています。広縁は2階のベランダの下で、雨水が当たりませんので、ここで休めるようにしています。



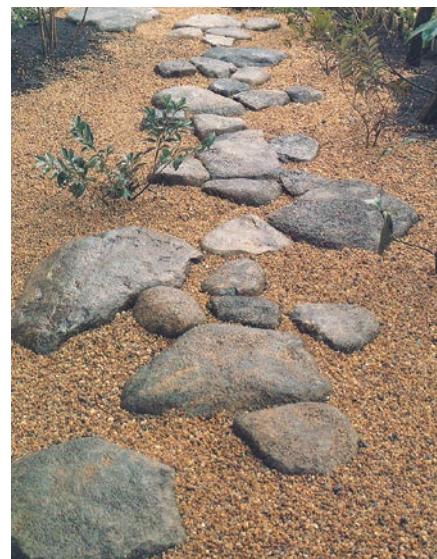
庭の景色です。朝鮮灯籠と蹲踞で構成しています。植物はイロハモミジ、コナラ、奥の太い木がアセビです。常緑樹はアセビを一本入れていますが、これはほとんど下枝のないもので幹の太さを見せるために植えてあります。四方を家に囲まれているので、日差しは真上からしか入りません。そのため樹木は何となくひょろひょろして、枝は上方の方だけになってきています。下草はアセビとヒサカキで、できるだけ日陰に強いものにしています。



⑤船橋市・住宅展示場－新都市型住宅の庭

室内から見る庭の景色です。住宅展示場ですので、ほとんど仕切りは設けず、雑木の間から向かいの建物が見えるよう、道路からも建物や庭が出来るだけ見えるようつくっています。植栽は雑木だけです。冬、葉が落ちれば、丸見えになる状態です。

周囲の竹垣は教林坊垣です。四ツ目垣はあまりに一般的ですので、ここではこの垣にしました。広縁は2階のベランダの下で、雨水が当たりませんので、ここで休めるようにしています。



管理しやすいように、そして明るい感じになるように、地表面は砂利敷きにしています。園路は虫食いにして変化を出しています。砂利敷と植栽部分は、できるだけ縁を取らず、土と砂利が混ざった曖昧な感じにしています。



心配りされた庭・待合に向かう延段と流れのスケッチ



好日庵の庭・入口のスケッチ

庭に向かう私の姿勢

第4回 『いい庭をつくりたい』

2022（令和4）年8月28日（日）オンライン講座

仙波太郎

はじめに

「庭に向かう私の姿勢」ということです。ですが、今回はこれまでの経験談をお話いたします。その中で参考になることがあります。あればありがたいと思います。

私がいる松山市というのは、松山城を中心とした城下町で、歴史的な観光地といえば、松山城、そして、日本最古の温泉と言われています。道後温泉があります。とても住みやすくなるんびりした土地柄です。

実家は造園業を営んでいましたので大学卒業後は造園の道を選び、京都に修業に出ました。修業先は、「宏歸流 京都庭常」という事業所で、親方平岡宏歸氏と子息の佳道氏に師

事しました。この事業所は、室町、鎌倉期の枯山水の石組や露地を中心とした日本的な庭づくりを得意としています。そこで約6年間勉強した後、地元松山に戻り家業に従事し、現在に至っています。現在は30歳代以下の若いスタッフ4人と頑張っています。

地元に帰つてから、日本庭園協会香川県支部（現四国支部）の前支部長越智将人氏と出会い、勧められて当協会に入会しました。

越智氏には、何かあるたびに東京などに同行させてもらい、当協会のイベントや勉強会に参加しました。大変良い経験をさせてもらいました。それと同時に、庭づくりの厳しさ、大変さも感じています。現在も継続して活動しております。

【仙波太郎プロフィール】

1975年生まれ、愛媛県松山市出身。
地元の大学を卒業後、「宏歸流 京都庭常」で修業。2003年、松山に戻りの代表を務める。

庭に向かう私の姿勢

曖昧で単純な言い方ですが、「いい庭をつくりたい」というのが、全ての根本にあります。

「いい庭」とは何か。誰にとつていの庭なのか、これは皆さんにとつて

も永遠の課題で、すごく難しいことだと思います。住宅の庭をつくるとき、自分自身の理想はもちろんあります。しかし、施主側の思いや理想、希望もあります。自分としては、施主の予算で、施主の所有する敷地内に庭をつくるわけですから、なるべく施主の希望をかなえ、期待に応えたいと考えています。その中で、自分の個性や感性、そしてこれまでに勉強したことなどをあからさまなく、うまく加えるようにしようと思っています。

自分自身は京都の勉強がかなり基本になつておらず、体に染み付いて取れないというところがあります。例えば、飛石一つ据えるにも、最初に教えてもらったやり方で、今でもなお、それを真剣にやっています。

庭を設計するにあたつては、まず、施主との対話を非常に大事にしています。この話で、その家庭のことや土地の条件などがいろいろ制約として出てきます。それらに基づいて庭の内容を構成していくことが多いです。初めから自分はこれがつくりたい、これをやらしてくれという形では進めないことが多いです。

設計では、図面を必ず描きます。若いスタッフもいますし、言つただけでは覚えられないですから。私自



T邸その1・アプローチのイメージスケッチ



①K邸(大洲市)

お茶の稽古場の新築に伴う作庭です。ここは立礼席から見た姿です。コケと砂利を入れて仕上げています。あまり物を多く入れ過ぎないようにしています。飛石は既存の石垣に積んであった石を再利用しました。手前の砂利も現場で出た石です。燈籠も既存のものです。

植栽樹木はシャリンバイ、コハウチワカエデです。背景が生きるように樹高や葉のつき具合などに考慮してこの程度で収めています。右奥の袖垣は、クロチクの鉄砲垣です。両側はサビ丸太です。空間のバランスを見て、元々あったものの半分くらいの幅30cmにしています。通りやすさにも配慮しました。(2021.5)



地元の青石を使用した石積は建築前に施工しました。手前の土間は地元の真砂土と普通セメントを混ぜただけの洗い出しえです。濡れると茶色に見え、乾くと白っぽくなります。真ん中の伽藍石は、施主が彫刻を置きたいということで配置しましたが、現在は壺を置き、花が生けられています。置燈籠でも良いし、多目的に使ってもらえた良いと思います。(2021.5)

重要なところだと思っています。これができるかできないかで、広がりだつたり、遠近感がうまく使えたり、相乗効果が出てきたりしますので、かなり重要視しています。

作庭中はいつも、どうすれば美しく見えるかを考えています。逆になぜ綺麗に見えないのか、どうしたら綺麗に見えるかを考えています。

使用材料についてお話しします。景石や石積などに使用する石材はなるべく地元のもの、もしくは地元に近いものを使いたいと思っています。地元で施工する場合、例えば栃木県で採掘される大谷石でテラスをつくつても、違和感を覚えるので、なるべく、愛媛県内や広くても四国内で採れるようなものを使いたいと思っています。

植物については、近隣の山に自生

しているものを出来るだけ使用します。それは、夏の暑さに対応したいということが一番になります。やはり、植物を植えるのであれば、年々より良くなつてほしいと思います。

こちらでは、南面に植えた木が、植えた年が一番良かつたということがよくあります。年々悪くなるのではなく、植物の生命力を借りて、瑞々しく、緑が綺麗になるように使いたいという思いがあります。そして、毎年の手入れにより、美しく仕立てができる樹種を選びます。というのが昔から使われている木、今の人気の樹種や新しい洋木ではなくて、例えばアラカシ、イヌマキなど毎年の手入れをして綺麗に見えるものを多く使っています。

しているものを出来るだけ使用します。それは、夏の暑さに対応したいということが一番になります。やはり、植物を植えるのであれば、年々より良くなつてほしいと思います。

こちらでは、南面に植えた木が、植えた年が一番良かつたということがよくあります。年々悪くなるのではなく、植物の生命力を借りて、瑞々しく、緑が綺麗になるように使いたいという思いがあります。そして、毎年の手入れにより、美しく仕立てができる樹種を選びます。というのが昔から使われている木、今の人気の樹種や新しい洋木ではなくて、例えばアラカシ、イヌマキなど毎年の手入れをして綺麗に見えるものを多く使っています。

グランドカバーは、日本的な仕上げとしてスギゴケをよく使います。しかし、松山は海が近いせいかかなり乾くので、うまくいかないケースも多いです。さらに土の問題もあります。土は真砂土と言つて栄養もないうまく育たないので。そこで、スギゴケとタマリュウを混植してグランドカバーにしていることが多いです。コケがうまくいかなかつた場合は、タマリュウを増やして補つています。

維持管理については、つくつた庭はなるべく自分で管理をしたいと思つています。植物は人間の都合でそつて、植えた樹木だけはお世話してあげたいという思いがあります。毎年手入れをすれば、植物の力も借りて、より美しく、仕立てもできて、

次に、作庭事例を紹介します。①から③は露地です。露地の庭をつくるにあたつては、以前、小田原市で開催された神奈川県支部主催の講習会を受けたことが大変勉強になりました。当時の支部長は清水哲也氏、講師は金綱重治氏でした。この講習会を受けて、実際の作庭に活かせたということで、神奈川県支部の方々には大変お世話になりました。その節はありがとうございました。

仙波太郎氏・作庭事例紹介



門から玄関までの本通路になります。正面の奥には主庭が見えています。石貼りの通路が長く単調になるため、主庭にも使っている六方石をアクセントとして入れています。敷地が広く、建築が大きいため、できるだけ大きな樹木を使いました。(2016.8)



⑤N邸

家族のためのプライベートな主庭です。玄関周辺のアプローチから見ることもでき、手前に樹木を配置し、「透けた感」を出し、それにより広がりが出るようにしました。奥には高さ45cmほどの庵治石の石積をつくり、立体感を出しました。目隠し効果のある常緑樹を多く使っています。(2018.5)

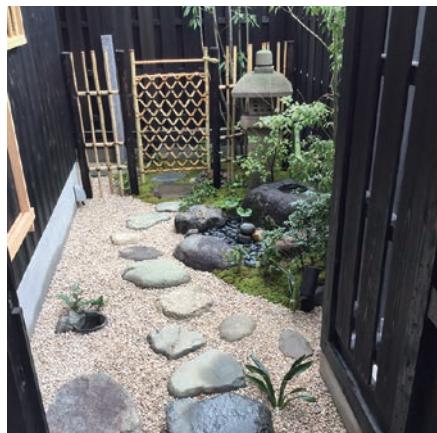


門から玄関まで通路沿いに小川をイメージした小さな流れをつくっています。川底などは地元の真砂土などを使った洗い出し仕上げにしています。この洗い出しへは越智将人氏に教えてもらった工法です。(2017.2)



③K邸(松山市)

狭い空間につくった露地です。物の大きさに配慮しました。縁先手水鉢は、細めの丸立鉢が良いと思いましたが、施主の要望で壺の水鉢にしました。やはりすごく窮屈で周りとのバランスを取るのがとても難しかったです。正面に見える袖垣は、メダケの松明の鉄砲垣です。濡れ縁の部分はクロチクです。(2015.11)



玄関から見た様子です。蹲踞の前石あたりまで軒が出て、雨が当たりませんので、砂利を使っています。蹲踞の部分は狭く見えないかもしれません、写真で見るより、実際はかなり狭いところです。枝折戸は幅2尺(60cm)です。(2015.11)



④T邸 その1

座敷から見える枯山水の石組の主庭です。地元のあぶら石と愛媛産の六方石の横の線を組み合わせた石組です。遠近感を出すために、植栽は手前には背の高いものを、奥には低い樹木を配置しています。冬、さみしくならないように要所に常緑樹を配置しています。(2016.8)



②S邸

お茶の先生の新築に伴う作庭で、ここは露地の部分です。奥に見える待合まで歩く道すがらです。飛石の配石は庭の骨格として重要視しています。軒内の三和土とコケとの間は、菊炭の雨落ちとしています。八女石の利休型燈籠は、施主の要望で据えました。八女石はすぐ風合いが出て、古さも感じられます。

アカマツやイヌマキ、アラカシ、モッコク、シャリンバイなどほぼ常緑樹です。落葉樹は季節を楽しめるイロハモミジを入れています。低木はシャシャンボやアセビ、アオキです。人が歩くのに邪魔にならないように植物は最小限にしています。あまり大きい木は使っていません。(2021.10)



奥の玄関を隠すようにウメ(白梅)を植えています。足元はタマリュウとスギゴケの混植です。燈籠は出雲石の小屋棒型です。この石も吸水率が大変高く、古さがすぐ出でてきます。門の外側に、落葉樹のイロハモミジ、常緑樹のモッコク、ゴモジュを配置しています。工期がない中、タイル屋や大工などと譲り合いながらなんとか完成させました。(2021.11)

今まで自分がやつてきたことを紹介しました。どの庭も、自分としてはかなり考えて、いろいろと結論付けてつくつてきました。出来上がった庭が綺麗に見えるかが気になるところですが、実際、綺麗に見えなかつたら、やり替えたりもしました。さらに、なぜ綺麗に見えないかをよくよく考えていました。しかし、見てみたらやはりここがこうだったなどと反省も多いです。若いスタッフとみんなで力を合わせ、しかし、その過程など恥ずかしくて、お見せすることなど到底できず、なんとかやりきっているという状態です。これらもいい庭ができるように日々の鍛錬に努めています。

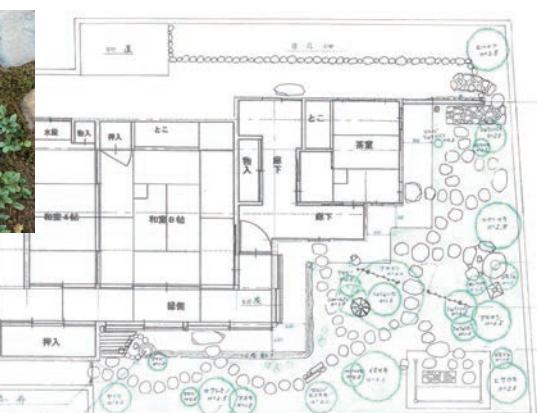
(正会員)

透ける感、重なり具合に注力され
る
菊炭の雨落ち

施工例を拝見させていただき、多くの気づきをいただきました。まず、石材等、極力地元産の材料を使用し、その土地柄の良さ・特徴を生かした庭づくりをされており、好感が持てました。また、今までの京都での経験等を活かし、単調ではなく、自然の景を融合させた庭づくりが素晴らしく、とても気持ちのいいものを感じました。

おり、そのことで庭に立体感が生まれ、面積以上に広さを感じる空間に仕上がつており、とても重要な要素であると感じました。配置する樹木については、手前に中低木、奥に高木を配置して立体感を出す事が多いですが、葉の密度が低い中高木を手前に配置し、奥を透かしてみせることで立体感を出させていました。遮蔽物については、狭い空間を広くみせるために竹垣に隙間を設けることで透ける感を上手く利用されました。これらの技法はとても勉強になりました。これからの施工の参考にさせていただきたいと思いました。

また、経験を積んで自信をつけていくと自身の志向に偏りがちです



S邸・露地の平面図 (仙波太郎氏作図)

おわりに



⑥T邸 その2

駐車場の舗装は、石貼りとコンクリートの洗い出しです。前面を石貼りにするより板石が目立ちます。玄関が瓦の四半敷きのポーチになっていることと敷地の南東角が少し切れていることを利用したアプローチの板石敷きは、斜め45°にふった通路にしています。右の竹垣はあえて透かしています。奥側は自転車や三輪車、荷物を置くスペースで、これらの目隠しにしています。完全に遮隠せず、目線がそこに行かない程度の透かしにしています。遮蔽垣にすると、多分この空間は狭く見えていたかと思います。(2020.4)



門柱横は四ツ目垣です。ここに遮蔽的な塀があると、車を出しにくく、子どもの飛び出しなど気が付きにくく、施主が気にしていたので、見通しがきく四ツ目垣にしました。

イロハモミジ、ウラジロガシを植栽しました。幼木ですが、成長にあわせて玄関の目隠し効果をうまくつくっていきたいと思います。カシは剪定によって大きくも小さくもできる樹木ですので、要望に合わせて大きく仕立てたり、透かしたりして調整していきます。(2020.2)

その仕事であり、お客様最優先で考えることの大しさを改めて教えていただきました。

※写真はすべて筆者撮影

基礎講座 一覧表

第1回 作庭基礎技法・先人の作風を知る

		2009年		2010年			
10月25日	上野周三	廣瀬慶寛	鈴木崇	犬養修司	小形研三	現場の把握と計画	人間（オーナーなど）と向き合う
11月29日	廣瀬慶寛	中島健の作風	見学・東渕江庭園他（足立区）	設計作業の進め方	小形研三の作風	庭園協会創設者たちの作庭	中根金作の作風
12月13日	廣瀬慶寛	飯田十基の作風	見学・横浜三溪園（横浜市）	図面はなぜ必要か	中島健の作風	見学・横浜三溪園（横浜市）	見学・千鳥ヶ淵戦没者墓苑（千代田区）
1月24日	小沼康子	野村脩	見学・本郷給水所公苑他（文京区）	作庭材料の吟味	飯田十基の作風	見学・小石川後楽園（文京区）	吉村巣の作庭
2月28日	平井孝幸	大成白歩	見学・見浜園（千葉市）	施工の基本姿勢	岩城亘太郎の作風	見学・大胡邸（横浜市）	水と向き合う
3月23日	高橋良仁	高橋良仁	見学・能仁寺（飯能市）	斎藤勝雄の作風	斎藤勝雄の作風	植物と向き合う	吉村巣の作庭
4月25日	上野周三	福永邦昭	小形研三の作風	見学・川崎市民プラザ（川崎市）	斎藤勝雄の作風	見学・大胡邸（横浜市）	水と向き合う
5月23日	福永邦昭	小沼康子	見学・川崎市民プラザ（川崎市）	図面はなぜ必要か	斎藤勝雄の作風	見学・小石川後楽園（文京区）	見学・千鳥ヶ淵戦没者墓苑（千代田区）
6月27日	鈴木崇	鈴木崇	中島健の作風	中島健の作風	斎藤勝雄の作風	見学・茅山荘（葉山町）	見学・護国寺（文京区）
7月25日	廣瀬慶寛	野村脩	設計作業の進め方	設計作業の進め方	斎藤勝雄の作風	庭に向かう私の姿勢	庭に向かう私の姿勢
8月29日	高橋良仁	平井孝幸	作庭材料の吟味	見学・瑞泉寺他（鎌倉市）	斎藤勝雄の作風	見学・茅山荘（葉山町）	見学・護国寺（文京区）
9月29日	大平暁	大成白歩	施工の基本姿勢	見学・川村記念美術館（佐倉市）	斎藤勝雄の作風	庭に向かう私の姿勢	庭に向かう私の姿勢
10月25日	大平暁	大成白歩	施工の基本姿勢	岩城亘太郎の作風	斎藤勝雄の作風	見学・茅山荘（葉山町）	見学・護国寺（文京区）
11月29日	高橋良仁	見学・ホテルパンシフィック東京（港区）	斎藤勝雄の作風	見学・ホーリーパンシフィック東京（港区）	斎藤勝雄の作風	庭に向かう私の姿勢	庭に向かう私の姿勢

第2回 作庭基礎技法・先人の作風を知る

（第1回とほぼ同じ内容で開催）

2010年	
4月25日	上野周三
5月23日	福永邦昭
6月27日	鈴木崇
7月25日	廣瀬慶寛
8月29日	大平暁
9月29日	高橋良仁
10月25日	大成白歩
11月29日	見学・ホーリーパンシフィック東京（港区）

第4回 作庭基礎技法・先人の作風を知る

（第1回とほぼ同じ内容で開催）

2012年	
3月25日	鈴木直衛
4月22日	望月敬生
5月27日	古平貞夫
6月24日	中山なつ希
7月29日	龍居竹之介
8月24日	河西力
9月29日	大平暁
10月27日	中澤周一
11月24日	高橋康夫
12月25日	大成白歩
1月29日	高橋康夫

第6回 庭に向かう私の姿勢・先人の道

（第1回とほぼ同じ内容で開催）

2014年	
5月11日	竹田利光
6月8日	萱森敬記
7月13日	武田潔
8月10日	望月敬生
9月14日	古平貞夫
10月11日	高橋康夫
11月8日	大平暁
12月25日	中澤周一
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	高橋康夫
2月25日	大成白歩
3月29日	高橋康夫
4月25日	見学・北の丸公園（千代田区）
5月23日	見学・大田黒公園（杉並区）
6月27日	見学・新宿御苑（新宿区・渋谷区）
7月27日	見学・蛭田黒公園（新宿区・渋谷区）
8月24日	見学・六義園（文京区）
9月29日	見学・大池袋中央公園（新宿区）
10月27日	高橋康夫
11月24日	大成白歩
12月25日	高橋康夫
1月29日	

第7回 庭に向かう私の姿勢・先人の道

2015年	
5月31日	由比誠一郎 庭に向かう私の姿勢
6月28日	龍居竹之介 先人の道・父 龍居松之助の世界
7月26日	望月敬生 庭に向かう私の姿勢
7月26日	吉田正夫 先人の道・父 吉田正吾の世界
7月26日	高田宏臣 先人の道・祖父 野村甚五郎の世界
8月30日	野村脩 庭に向かう私の姿勢
8月30日	土屋武詞 先人の道・父 野村甚五郎の世界
8月30日	清水哲也 庭に向かう私の姿勢
8月30日	見学・向島百花园 (墨田区)
9月27日	中澤周一 先人の道・父 中澤栄三の世界
9月27日	中澤周一 見学・豊前屋庭石店 (世田谷区)
9月27日	福永邦昭 先人の道・夫 曾根三郎の世界
9月27日	曾根珠江 先人の道・夫 曾根三郎の世界
9月27日	小沼康子 見学・殿ヶ谷戸庭園 (国分寺市)
9月27日	見学・泉岳寺 (港区)

2017年	
5月28日	上田卓聖 建物と庭・建築家
6月25日	杉浦干城 建物と庭・造園家
7月30日	金田正夫 建物と庭・建築家
7月30日	中村寛 建物と庭・造園家
7月30日	金田正夫 建物と庭・建築家
8月27日	龍居竹之介 建物と庭・建築家
8月27日	落合悟 建物と庭・造園家
8月27日	金田正夫 見学・ざやらりー無垢里 (渋谷区)
9月24日	龍居竹之介 新宿御苑で見る建物と庭
9月24日	三鍋光夫 見学・新宿御苑 (新宿区)
9月24日	三鍋光夫 見学・飯島邸 (杉並区)
9月24日	三鍋光夫 見学・飯島邸 (杉並区)
9月29日	佐藤偉仁 建物と庭・建築家
9月29日	新肇 庭と建物・造園家
9月29日	佐藤偉仁 見学・浜離宮恩賜庭園鷺の御茶屋 (中央区)

第9回 建物と庭

2019年	
5月26日	上野まゆみ 建物と庭・建築家
5月26日	米山拓未 建物と庭・造園家
5月26日	見学・個人邸 (横浜市南区)
6月30日	菅谷輝男 建物と庭・建築家

第11回 建物と庭

2018年	
4月29日	木股常精 建物と庭・建築家
5月27日	由比誠一郎 建物と庭・造園家
5月27日	木股常精 建物と庭・建築家
5月27日	高野保光 建物と庭・建築家
5月27日	高野保光 見学・木股邸 (武藏野市)
6月24日	本川勇 建物と庭・建築家
6月24日	本川勇 見学・野田邸 (練馬区)
6月24日	高水謙二 建物から見た庭・庭から見た建物
6月24日	高水謙二 見学・野田邸 (練馬区)
6月24日	金綱重治 建物から見た庭・庭から見た建物
6月24日	金綱重治 見学・燈々庵 (あきる野市)
7月29日	高橋良仁 建物から見た庭・庭から見た建物
7月29日	高橋良仁 見学・医王院安養寺 (大田区)
8月26日	井上洋介 建物と庭・建築家
8月26日	井上洋介 建物と庭・造園家
8月26日	平井孝幸 見学・鉢籠 (世田谷区)
8月26日	平井孝幸 見学・鉢籠 (世田谷区)

第10回 建物と庭

2017年	
5月28日	上野周三 建物と庭・造園家
6月25日	杉浦干城 建物と庭・建築家対談
7月26日	磯守 建物から見た庭・庭から見た建物
8月25日	鈴木康幸 建物から見た庭・庭から見た建物
8月25日	見学・永明院 (八王子市)
8月25日	見学・個人邸・旧本田家住宅 (国立市)

第13回 庭に向かう私の姿勢

2021年	
11月28日	北村葉子 都立庭園の冬支度
10月31日	加藤精一 煎茶精神と庭／そのかかわりをさぐる
9月29日	佐藤偉仁 見学・浜離宮恩賜庭園鷺の御茶屋 (中央区)
9月29日	新肇 庭と建物・造園家

第12回 庭に向かう私の姿勢

2022年	
5月29日	桃井賢二 北方園 人と気候風土と庭
6月26日	木目田裕一 創源一滴水
7月31日	廣瀬慶寛 庭 いつもあこがれます
8月28日	仙波太郎 いい庭をつくりたい
9月25日	石黒靖 庭づくりの基本を身につけたい方へ
9月25日	仲佐修二 島根県の庭・ベトナムでの作庭

技術委員会では、若手庭園実務者を対象とした「庭園技術連続基礎講座」を2009（平成21）年度より2022（令和4）年度まで全13回を開催しました。2020（令和2）年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開講を見送りましたが、2021（令和3）年度からはオンライン講座としました。これまで、講座数は63回、講師は延129人、見学地は延56ヶ所で、約410名が受講しました。各回の講座内容、見学地、講師は 覧表の通りです。

これまで実施された中で、もう一度聴きたい講座、訪れたい見学地など関心を持たれた回がありましたらお知らせください。また、今後開催のご希望や本講座へのご意見、ご要望がありましたら事務局までお寄せください。

本部・支部たより

「みんなの緑学」

10月7日（金）、「現代日本庭園の巨匠たち」、その作庭手法と庭園観
第4回小形研三、講師・龍居竹之介名誉会長が開催されました。講演内容は次号に掲載予定です。

11月24日（木）、「長尾欽弥とよね

その人物と本宅・別邸の庭を巡つて、講師・加藤映氏が開催されました。講演内容は、本誌に掲載予定です。

●日本庭園協会創立105周年記念事業アイデアを引き続き募集中！

本年、2023年は日本庭園協会が創立105周年を迎えます。また、当協会とかかわりが深い公園制度の誕生から150周年という節目の年にも重なります。

そこで、本年を創立105周年記念イヤーとすべく事業展開を図ろうと考えています。

現在、シンポジウム、記念講演会、東日本大震災復興記念庭園見学ツアーや、清澄庭園連続講演会冊子発行などが候補に挙がっていますが、会員の皆様もこの記念事業に企画段階から参加していただきたいと思います。



加藤精一常務理事のお点前
酒井和佳子氏撮影



「庭屋一如」蹲踞周りの経年変化を表現
鈴木康幸氏撮影

庭園協会事務局宛、メールかファックスでお寄せ下さい。斬新なアイデアをお待ちしております。なお、締め切りは2月15日です。

e-mail : gsj20@m7.dion.ne.jp
FAX : 03 (3204) 0595

●龍居竹之介名誉会長のロングラン講演会は、第5回・10月19日（水）、殿ヶ谷戸庭園の見学会と『幕末から現代の庭世界（その2）』と題する講演、第6回・11月16日（水）、『江戸前半の庭と暮らし』と題する講演、

第7回・12月21日（水）、『作庭書増え庭巡りも人気』と題する講演、大田黒公園の見学会が開講されました。

●12月15日（水）、「清澄庭園鑑賞会」が開催されました。

●12月15日（水）、「清澄庭園鑑賞会」が開催されました。

10月22日（土）～10月30日（日）までの9日間開催された「第20回日比谷公園ガーデニングショーアー2022」のガーデンコンテストにおける

「ライフスタイルガーデン部門」に、支部の新たなスタートを記して支部会員有志が出展しました。多くの来場者にご覧いただきました。

涼亭において龍居竹之介名誉会長による「清澄庭園～明治の庭のおいだち」と題して江戸時代の大名庭園の流れから清澄庭園の成り立ちと歴史、明治の庭としての特異性、岩崎

まれ、冬の清澄庭園を観賞する貴重な一日になりました。

東京都支部

10月22日（土）～10月30日（日）までの9日間開催された「第20回日比谷公園ガーデニングショーアー2022」のガーデンコンテストにおける

「ライフスタイルガーデン部門」に、支部の新たなスタートを記して支部会員有志が出展しました。多くの来場者にご覧いただきました。

編集後記

★卷頭言の興臨院 方丈前庭は、金綱重

治氏の師・中根金作氏により復元された枯山水庭園。白砂に石組を配し、理想的な蓬莱世界を表したとも。茶室「涵虚亭（かんきよてい）」も見どころ。春と秋に特別公開されます。（や）

★今回の清澄庭園鑑賞会は、菊地正樹鑑賞研究委員長の発案・企画によるもの。清澄庭園を国指定の名勝に！という龍居竹之介名誉会長の熱い思いへの後押しの意味もあり、多くの方々に清澄庭園の素晴らしさを堪能していただく企画でした。参加者の笑顔からその目的は十分に達成されたと実感しました。（う）

★「庭園技術連続基礎講座」の記事化は内田均と小沼康子が担当しました。

訃報

当協会元常務理事、広報委員会委員長の大平暁氏が令和4年11月7日、ご逝去されました。享年91歳でした。ご冥福をお祈りするとともに、謹んでお知らせいたします。

新入会員・氏名（住所）

（2022年10月1日から12月30日入会）
深谷玲子（東京都）、深谷健司（東京都）、斎藤小百合（東京都）、平井美鈴（神奈川県）
(入会順・敬称略)

編集担当・小沼康子／内田均／中山なつ希
／酒井和佳子
本文デザイン・由比まゆみ